

令和5年度
夏油高原スキー場運営評価委員会
報告書

令和6年4月

夏油高原スキー場運営評価委員会

目 次

1	委員長あいさつ	1
2	評価について	2
3	評価結果について	4
	■ 1. 運営状況	4～5
	■ 2. 財務状況	6
	■ 3. 夏油高原スキー場運営 10年目の振り返り	7
	■ 4. 夏油高原スキー場の今後の展望について	8
	■ 5. その他意見	9
	■ 6. 総括意見	9
資 料 編		10～
	北上市夏油高原スキー場運営評価委員会要綱	11
	北上市夏油高原スキー場運営評価委員会 委員名簿	12
	夏油高原スキー場 これまでの経緯	13～15

1 委員長あいさつ

夏油高原スキー場運営評価委員会

委員長 三 堀 裕 雄

令和5年度の北上市夏油高原スキー場運営評価結果の報告にあたり、代表してご挨拶を申し上げます。

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会は、専門家による第三者的な視点から運営事業者の運営状況等について厳正かつ公正な評価を行うとともに、スキー場運営全般に対する意見を付する場として、平成26年に設置され、今年で11年目となります。

今年度は夏油高原スキー場において公設民営方式による運営の10シーズン目の運営及び財務状況について評価を行うとともに、運営10年目の振り返りと今後の展望について議論を行いました。財務及び運営状況は、チェック項目に○、△、×による評価をしたうえで、総合的に（A）適切、（B）おおむね適切、（C）一部見直し、（D）要改善（抜本見直し）の評価を行いました。また、運営9年目の振り返りと今後の展望については、運営事業者及び市の意見を踏まえ、各委員から提言をいただきました。評価の概要については次のとおりです。

運営状況については、老朽化が進む施設の修繕等について市と連携して随時適切に対応されており、グリーンシーズンの取り組みについても積極的な姿勢が伺えます。課題に対しても前向きに取り組んでおり、事業計画に沿って適切に運営がなされていることから、総合評価は「A：適切」としました。

財務状況については、グループ全体として判断しており、年度利益を計上しているところではありますが、決して良好な状況とは言えません。一部子会社は、実質的には利益が見込めない状況であり、今後の対応について検討が必要と考えられます。しかしながら、全体としては関連会社の経営等も今後改善する見通しがあり、良い方向に向かっているとと言えます。今後の計画について見直しの上、財務の安定化を図っていただきたいとして、総合評価は「C：一部見直し」としました。

スキー場運営の10年目の振り返りについては、コロナの影響が尾を引いていたことや、気象条件が良くなかったこと等、非常に難しい状況下でしたが、宿泊施設の充実化やインバウンド向けのプロモーション等、これまでの積み重ねにより深刻な状況を回避できたものと考えられます。また、売上も伸ばしており、財務状況も良い方向に向いてきています。設備投資や人員増加が成果につながっており、高く評価するものであります。

今後の展望については、大きな課題として施設の大規模な改修が挙げられます。施設の状況を把握し、市と連携して検討いただく必要があります。併せて、宿泊機能の拡充及びグリーンシーズンの充実、国有林野活用に関する検討等、リゾート化に向けた取り組みについても計画の実現に向けて引き続き尽力いただくよう提言しました。

最後に、世界的に温暖化が進む中で、豊富な降雪とその雪質に恵まれた夏油高原は今後も残っていただけるポテンシャルの高いスキー場であると考えられます。行政や地元の民間企業、関係団体との連携及びグループとしての総合力を高め、夏油高原ならではのリゾートを目指して頑張っていただきたい旨を総括意見としました。

以上、評価委員会の事業内容の評価の結果を御報告します。

2 評価について

評価については、「夏油高原スキー場運営事業者選定委員会」を開催した際の選定基準とした項目に基づき、重点項目となる「運営状況」、「財務状況」について評価を行いました。また、自由記述式として、「夏油高原スキー場運営 10 年目の振り返りについて」、「夏油高原スキー場の今後の展望について」に関し、委員から提言をいただきました。

R4 審査基準の置き方	視 点
■ 1. 運営状況 (計画性・企画力・展開力等)	① 社会情勢や顧客のニーズ等、施設を取り巻く環境を把握し、計画的に事業運営を行っているか。
	② 施設の維持管理は適切に行われているか。
	③ グリーンシーズンの活用策が効果的に実施されているか。
	④ 運営に対する創意工夫と自助努力がなされているか。
	⑤ 市や関係団体等と連携して事業運営を行っているか。
■ 2. 財務状況 (損益・安全性・計画性等)	① 当期純利益が計上され、損益状況は良好であるか。
	② 不良資産がなく、純資産が確保されており、財政状態が健全であるか。
	③ 短期・長期の損益計画が策定されており、予算・実績対比分析がなされているか。
■ 3. 2022-23 シーズン (10 年目) の振り返り	運営事業者が取り組んできた事業等に対する意見や提言
■ 4. 今後の展望について	今後の構想に対する意見や提言
■ 5. その他	その他
■ 6. 総括意見	まとめ

【参考】運営事業者選定委員会 選定基準

No	公募要領のポイント	審査基準の置き方	視 点
1	次期運営事業者の義務 契約期間、スキー場の運営を誠実に 行う義務	契約期間、事業を誠実に 行う計画、体制、運営となっ ているか	総合性、経営基盤、将来性、 実績、企業理念
2	契約期間 5年以上10年以内での提案	継続性を有した計画となっ ているか 実現可能性が高い計画か	継続性、実現性、収益性、企 画力
3	運営に関する自立性 市は赤字補填を行わない	運営に対する収支見通しが適 正か 運営に対する創意工夫と自 助努力がなされているか	経営基盤、自立性（自助努 力）、収益性、業務遂行能 力
4	適正な管理のもとで施設の改修・更 新に対応	適正な維持管理計画となっ ているか 真に必要な時期に必要な手 立てを講じているか	実績、専門性、安全性、リス クマネジメント
5	運営に関する市への報告と協議 市への収支状況の報告&公開	収支報告や公開に協力して いるか 市との協議を行う体制や計 画となっているか	企業姿勢、公益性、
6	利用者増への取り組み	具体的かつ実現性のある取 り組みが提案されているか 自助努力のもとで取り組ま れる内容か	企画力、創意工夫、専門性、 独自性
7	関係団体との連携	連携・協調を進める体制や計 画となっているか グリーンシーズンの活用策が 具体的に示されているか	協調性、社会貢献、展開力、 継続性
8	市民や利用者への配慮した運営に 努めること	料金の見直しはどうか 市民や利用者への取り組みが 具体的かつ効果的か	企画力、独自性、事業実績、 利用者視点
9	地元の事業者や人材の活用	地元との連携を進める体制 や計画となっているか 採用等において地元人材の 活用が配慮されているか	企業姿勢、地域貢献、継続性

3 評価結果について

各項目に関する評価結果は以下の通りです。なお、評価にあたっては、市の内部評価や運営事業者による自己評価をもとに行いました。

[運営事業者の評価]

■ 1. 運営状況（計画性および効率性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目	事業者	市担当	委員会
⑥ 社会情勢や顧客のニーズ等、施設を取り巻く環境を把握し、計画的に事業運営を行っているか。	○	○	○
⑦ 施設の維持管理は適切に行われているか。	○	○	○
⑧ グリーンシーズンの活用策が効果的に実施されているか。	○	○	○
⑨ 運営に対する創意工夫と自助努力がなされているか。	○	○	○
⑩ 市や関係団体等と連携して事業運営を行っているか。	○	○	○

運営事業者の自己評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングとブランディングの成果により、安定して集客出来るようになった。 ・老朽化による修繕箇所が増加してきているが、現時点では適時修繕更新を行っている。 ・冬季に比べて規模は小さいが、毎年新しい取り組みを行って事業拡大に努めている。 ・売上拡大からコスト削減まで日ごろから改善点を探り、最善を尽くしている。 ・各行政機関と連携をとり、良好な関係を続けている。 			

市担当部課の点検評価

評価の理由	<input checked="" type="checkbox"/> A. 適切	<input type="checkbox"/> B. 概ね適切	<input type="checkbox"/> C. 一部見直し	<input type="checkbox"/> D. 要改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の悪天候や、暖冬により例年よりも短いシーズンとなった影響を受けつつも、1月以降のインバウンドの回復をしっかりと取り込み、施設への宿泊に結び付けている。 ・施設の維持管理について、市と密に連絡を取り合いながら、第2 Gondola やクワッドリフトの大規模な整備工事を実施した。老朽化により計画外の修繕等を余儀なくされるが随時適切に対応している。 ・継続してキャンプやテントサウナ、係留気球等のアクティビティを積極的に展開している。また、新たなアクティビティやサービスの提案等も活発に行われている。 ・紅葉まつりや登山ガイド、夏油高原カップなど、関係団体と連携して事業を行っている。地域との連携を強め、地域への経済効果につながる取り組みに期待したい。 			

運営評価委員会の評価

A. 適切

B. 概ね適切

C. 一部見直し

D. 要改善

運営評価委員の意見

- ・事業計画に基づき適切に運営がなされており、課題に対しても前向きに取り組んでいる。
- ・施設の維持管理について、市と連携し、与えられた状況下で適切に処理されている。
- ・グリーンシーズンのキャンプやアクティビティは継続して実施されており、入込も安定している。様々なサービス及びアクティビティ等の提案もなされており、積極的な姿勢が伺える。
- ・市や近隣の温泉事業者、関係団体等と連携してイベント開催及びアクティビティ提供に取り組んでいる。
- ・施設内の客室が満室の状況により、宿泊のニーズに対応しきれない部分に対して、近隣や市内の宿泊事業者との連携により解決できないか、すでに実施している面もあるが、今後の課題として検討いただきたい。

■ 2. 財務状況（経営の持続可能性）

※チェックは○・△・×で記載

チェック項目		事業者	市担当	委員会
④	当期純利益が計上され、損益状況は良好であるか。	△	△	△
⑤	不良資産がなく、純資産が確保されており、財政状態が健全であるか。	△	△	△
⑥	短期・長期の損益計画が策定されており、予算・実績対比分析がなされているか。	△	△	△
運営事業者の自己評価				
評価の理由	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> C. 一部見直し <input type="checkbox"/> D. 要改善			
	<p>・一時期よりも安定した財務内容になっているが、盤石とはまだいえない。コロナや急激なコストアップなどの社会情勢に対して、最大限対処できたと考えている。</p>			
市担当部課の点検評価				
評価の理由	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> C. 一部見直し <input type="checkbox"/> D. 要改善			
	<p>・子会社を含めたグループ全体で見れば当期純利益が計上されている状況ではあるが、借入状況等も勘案すると良好とはいえない。 ・インバウンドの再開を取り込み宿泊等の売り上げを伸ばしているものの、販売費・一般管理費が売上総利益を上回っている状況である。今後の借入金返済と併せて、安定した利益が計上されるよう、計画的に戦略立てていただくよう期待したい。</p>			
運営評価委員会の評価				
運営評価委員の意見	<input type="checkbox"/> A. 適切 <input type="checkbox"/> B. 概ね適切 <input checked="" type="checkbox"/> C. 一部見直し <input type="checkbox"/> D. 要改善			
	<p>・年度利益としては、決して良好という状況ではないが、利益を計上している。 ・一部子会社について、現状実質的には利益となっていない。売却するにも施設の老朽化により価格がつかない可能性がある点、貸付金を回収しきれぬか不透明な部分がある点は、今後の対応について検討が必要である。しかしながら、全体としてみれば翌シーズン以降の利益を計上する計画を策定できている。関連会社の経営等も今後改善の見通しを持っており、今後良い方向に向かっていく期待感を持つてる。 ・中期計画において、多額の資金が必要となる事業も盛り込まれており、一部見直しが必要である。また、物価高騰の影響等もあり、経費が高まっている状況にある。現状に即した収入見立て、必要経費を確認し、計画的な運営を行うことで財務の安定化を図っていただきたい。</p>			

■ 3. 2022-23 シーズン（10年目）の振り返り

<p>運営事業者 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ明けとなる10年目は県外や海外客も復活し始め活気のあるシーズンとなった。 ・2、3月はほとんど雪が降らず、GW迄の営業が叶わなかったが、全体としてまずまずの成績を収められた。 ・技術メンバーの新入社員を迎え、これまで遅れていた技術継承、世代交代へ向けての準備を始めている。また、営業メンバーも個々の業務遂行能力が向上し、生産性が向上している。
<p>市担当部課 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シーズン前半の休日は悪天候が多かったことや、暖冬の影響により雪が少なかったことで難しいシーズンだったと予想されるが、1月以降のインバウンド回復を着実に取り込んでおり、台湾国立大学の実技講義の誘致や、豪州・欧米からの宿泊が安定していた点など、これまで積み重ねてきたマーケティング及びブランディングが成果につながっている。 ・課題としていた施設や設備管理に関する人材育成について、施設管理部の若手スタッフを採用し、解決に向けて取り組んでいる。一方で、冬期間中のスタッフの確保に苦慮しているように見受けられる。繁忙期のオペレーション、特に安全管理の面では影響がないよう引き続き注力願いたい。 ・施設の維持管理計画を進めるにあたり、大規模な改修及び更新の件数が増えているが、発注や進捗管理に関する事務等、適切に取り組んでいる。
<p>評価委員の 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響が尾を引いていたことや、気象条件が良くなかったこと等、非常に難しい状況下で健闘している。宿泊設備の充実化やインバウンド向けのプロモーション等、これまでの積み重ねにより深刻な状況を回避できているものと考えられる。 ・設備修繕も含めて施設が充実してきており、安全性及び集客につながっている。売上も伸ばしており、財務状況も良い方向に向いてきている。設備投資や人員増加等が成果につながっているものと評価できる。

■ 4. 今後の展望について

<p>運営事業者 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な雪（豪雪）とツリーランエリアが今の夏油高原の代名詞となったが、今後もこの滑走環境の魅力を継続して大切にしていきたい。外部資本を取り入れたリゾート化を一つの目標とし、施設の永続についても市との話し合いを継続し、実現していきたい。スキー場隣接の宿泊ベット数の不足解消が近々の課題で、解決に最優先で取り組んでいきたい。 ・グリーンシーズンでは、アウトドアアクティビティなどの充実を図り、近隣のアウトドア事業者とも連携し、将来的には海外客の誘致にも取り組んでいきたい。
<p>市担当部課 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏油高原スキー場の将来構想の実現に向けて、具体的な取り組みを整理し推進していく必要がある。施設の維持管理計画の推進や宿泊施設の拡充に向けた国有林野や保安林に関する検討等、密に連携して取り組んでいきたい。 ・これまでの「豪雪」や「グローアップツリーラン」のブランディングに加え、近年は「パウダーリセット率」も併せてPRされている。夏油ならではの魅力として定着するよう期待したい。 ・今後引き続きインバウンドの回復が見込まれる。これまで積み重ねてきたマーケティング及びブランディングを活かしながら、長期滞在の促進や地域との連携を充実させ、周辺エリアも含めた観光消費を増加させる取り組みに期待したい。
<p>評価委員の 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の大規模な改修等は、今後の課題として市と連携し検討していく必要がある。配管関係等の大規模な改修が見込まれる設備については、現状を把握しておくよう留意いただきたい。 ・インバウンドの再開等を見込み、客室追加やカフェ設置、ICゲート導入等の設備投資を計画する等、売上増及び利用者サービス向上に努めている。宿泊機能の拡充及びグリーンシーズンの充実、国有林野活用に関する検討等、リゾート化に向けた取り組みについても、計画の実現に向けて引き続き尽力いただきたい。 ・親会社であるクロスプロジェクトグループを含めて、グループの力を結集した取り組みを期待したい。リゾート化に向けたステップアップのためにも、グループ全体の事業計画の中での夏油高原に関する取り組み及びバックアップを検討いただきたい。

■ 5. その他

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none">・ 来場者の宿泊先について、広域に近隣市町村までを宿泊範囲と捉えて提携等を検討していくことも必要である。・ 農家民宿や古民家の利活用について、様々な成功事例がある。また、ご当地カード作成や県内の有名食品の活用、地元企業とのタイアップによる大会誘致等、投入経費が少なくとも効果を出している事例もあるので、ぜひ検討いただきたい。・ 施設の老朽化が進んでいる状況であり、施設の点検や維持管理においては年々厳しくチェックしていく必要がある。・ 稲瀬や水神等、市内でアウトドアコンテンツを展開している事業者が増えている。そういった団体との意見交換及び連携した事業展開に期待したい。
---------	--

■ 6. 総括意見

評価委員の意見	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍や気象条件、施設の老朽化等、難しい局面は多々あったかと思うが、自助努力及び創意工夫を重ねて乗り越えており、その点は特に評価したい。・ 財務状況は安定してきており、良い方向に向かっている。グループとしての経営をしていくにあたり関連会社の財務状況なども踏まえて、計画的に経営していく必要がある。・ 世界的に温暖化による暖冬少雪の影響がある中で、降雪とその雪質に恵まれた夏油高原は、今後も残っていけるポテンシャルの高いスキー場であると考えられる。行政や地元の民間企業、関係団体との連携及びグループとしての総合力を高め、夏油高原ならではのリゾートを目指して頑張ってください。
---------	---

資 料 編

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会要綱

(設置)

第1 夏油高原スキー場の健全な運営を推進するため、夏油高原スキー場運営評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 夏油高原スキー場の運営状況等の評価及び検証に関すること。
- (2) その他市長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3 委員会は、委員5人以内をもって組織し、知識経験を有する者その他適当と認める者のうちから市長が委嘱又は任命する。

(任期)

第4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

- 2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長の指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6 委員会の会議は、市長が招集する。

- 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見等の聴取)

第7 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見、事情等を聴取するほか、資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8 委員会の庶務は、商工部商業観光課において処理する。

(補則)

第9 この告示に定めるもののほか必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

北上市夏油高原スキー場運営評価委員会 委員名簿

(任期：令和5年2月1日から令和7年1月31日まで)

No.	役職	区 分	氏 名	所属・職名等
1	委員長	観光関係専門分野	三 堀 裕 雄	旅行ライター&エディター
2	委員	経営関係専門分野	堤 研 一	公認会計士
3	委員	スキー関係専門分野	山 本 進	一般財団法人 岩手県スキー連盟
4	委員	利用者代表	高 橋 駿 介	北上スキーをこよなく愛する会
5	委員	観光関係専門分野	八重樫 守 民	一般社団法人 北上観光コンベンション協会

【夏油高原スキー場 これまでの経過】

- 平成5年12月 夏油高原スキー場オープン
- 平成14年11月11日 夏油高原スキー場施設の使用貸借に関する仮契約書締結
- 平成14年12月5日 財産の取得について議決（土地・建物・物品）
- 提案理由（議事録抜粋）
- 取得する財産は、夏油高原開発㈱のスキー場施設で10月臨時会において議決した国際興業㈱からの負担付寄付（310,0003,973円）により取得する。スキー場施設の看板・自動車・圧雪車・除雪車・工具器具備品等を除く、新夏油橋駐車場の土地（9筆）・スキーセンターほか12棟の建物・スキーコースのナイター設備等の構築物・自家発電機等の機械装備・リフト搬器等の車両運搬具を含めた一切のスキー場施設の寄付条件を履行するため取得する。
- ◎議決の結果
- 起立多数で原案のとおり可決。
- 平成14年12月5日 財産の無償貸付について議決（土地・建物・物品）
- 提案理由（議事録抜粋）
- 国際興業㈱の負担付寄付を履行し、夏油高原㈱に貸し付けようとするもの。夏油高原スキー場が継続利用されることで、雇用確保や地域振興等に資することから無償で貸付ける。貸付する財産は先に議決された全ての財産。所有権移転については売買に関する仮契約で12月中旬を目途に売買代金の支払い等の実行後に行う。使用貸借に関する仮契約では、売買契約が履行されることを条件として効力を生ずるとしていることから、所有権移転後に貸付実行となるもの。
- ◎議決の結果
- 起立多数で原案のとおり可決。
- 平成14年12月5日 夏油高原スキー場の運営に関する覚書締結（市・夏油高原開発㈱）
- 平成14年12月5日 森林空間総合利用整備事業の推進に関する協定書締結（県・市・夏油高原開発㈱）
- 平成17年9月 夏油高原温泉開業
- 平成21年10月 夏油高原観光活性化策の調査研究報告書提出（三菱総合研究所より）
- 平成22年7月 夏油高原活性化タスクフォース設立
- 平成23年3月11日 東日本大震災・被害により営業休止
- 平成23年6月24日 夏油スキー場の国有林使用料を市が負担すること決定
- 平成23年8月20日 きたかみ夏油高原ヒルクライムを開催
- 平成23年10月1日 営業再開
- 平成23年12月12日 シーズン開始
- 平成23年 スキーの提供会を開催
- 平成24年 各種トレッキングを開催
- 平成25年3月4日 スキー場運営について報告
- 平成25年3月29日 加森観光株式会社及び夏油高原開発株式会社より夏油高原スキー場運営から撤退の申し出
- 平成25年5月31日 加森観光株式会社及び夏油高原開発株式会社 契約解除
- 平成25年5月31日 夏油高原スキー場施設における動産を市が取得

平成25年 6月 3日 運営事業者公募開始

平成25年 6月17日 夏油高原スキー場雄事業者選定委員会の選定結果により、株式会社クロスプロジェクトグループを運営事業者として選定

平成25年 7月 1日 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約に基づき、株式会社クロスプロジェクトグループが運営開始

平成25年 8月 1日 株式会社北日本リゾートが株式会社クロスプロジェクトグループの100%子会社としてスキー場の運営を開始

平成25年11月30日 夏油高原スキー場2013～2014シーズン プレオープン

平成25年12月 6日 安全祈願祭

平成25年12月 7日 夏油高原スキー場2013～2014シーズン オープン

平成26年 5月11日 2013～2014シーズン 終了

平成26年 7月26日 グリーンシーズン営業開始

平成26年 8月20日 臨時議会にて圧雪車のリース契約について承認

平成26年11月10日 夏油高原スキー場運営評価委員会 開催

平成26年12月 6日 夏油高原スキー場2014～2015シーズン オープン

平成27年 8月 1日 グリーンシーズン営業開始

平成27年12月 5日 スキー場2015～2016シーズン オープン

平成28年 1月28日 平成27年度夏油高原スキー場運営評価委員会

平成 28年 4月 24日 スキー場 2015～2016 シーズン終了

平成 28年 6月 27日 施設の大規模改修及び更新に関する包括協定を締結

平成 28年 7月 16日 グリーンシーズン営業開始

平成 28年 12月 3日 スキー場 2016～2017 シーズン オープン

平成 28年 12月 20日 平成 28年度第 1回夏油高原スキー場運営評価委員会

平成 29年 2月 22日 平成 28年度第 2回夏油高原スキー場運営評価委員会

平成 29年 5月 7日 スキー場 2016～2017 シーズン終了

平成 29年 7月 15日 グリーンシーズン営業開始

平成 29年 11月 23日 スキー場 2017～2018 シーズン プレオープン

平成 29年 12月 2日 スキー場 2017～2018 シーズン オープン

平成 30年 2月 3日 第 1 ゴンドラ復旧、運行開始

平成 30年 2月 21日 平成 29年度夏油高原スキー場運営評価委員会

平成 30年 5月 6日 2017-18 シーズン終了

平成 30年 7月 15日 グリーンシーズン営業開始

平成 30年 12月 9日 2018-19 ウィンターシーズン営業開始

平成 31年 3月 4日 平成 30年度夏油高原スキー場運営評価委員会

令和元年 5月 6日 2018-19 ウィンターシリーズ営業終了

令和元年 7月 13日 グリーンシーズン営業開始

令和元年 11月 21日 2019-20 ウィンターシーズン プレオープン

令和 2年 4月 24日 2019-20 ウィンターシーズン終了

令和 2年 7月 3日 グリーンシーズン、キャンプ場営業開始

令和 2年 12月 16日 2020-21 ウィンターシーズン営業開始

令和3年2月26日 令和2年度夏油高原スキー場運営評価委員会
令和3年5月5日 2020-21 ウィンターシリーズ営業終了
令和3年6月30日 株式会社北日本リゾートから夏油高原スキー場管理運営事業継続届出書提出
令和3年7月2日 グリーンシーズン営業開始
令和3年11月27日 2021-22 ウィンターシーズン プレオープン
令和4年3月28日 令和3年度夏油高原スキー場運営評価委員会
令和4年5月8日 2021-22 ウィンターシリーズ営業終了
令和4年6月1日 夏油高原スキー場の将来構想策定（市）
令和5年6月18日 グリーンシーズン営業開始
令和5年6月23日 事業者選考委員会開催
令和5年7月11日 事業者選考委員会の結果を受け、株式会社北日本リゾートを次期運営期間に係る契約候補者として特定
令和5年8月8日 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約締結
令和5年9月1日 北上市議会定例会にて財産（土地・建物・物品）の無償貸付について議決
令和5年10月23日 グリーンシーズン営業終了
令和5年11月30日 次期運営期間に係る夏油高原スキー場施設の維持管理計画策定（市）
令和5年11月30日 次期運営期間に係る夏油高原スキー場施設の大規模改修及び更新に関する包括協定締結
令和5年12月9日 2022-2023 ウィンターシーズン営業開始
令和5年3月29日 令和4年度夏油高原スキー場運営評価委員会
令和5年4月23日 2022-23 ウィンターシーズン営業終了
令和5年6月17日 2023 グリーンシーズン営業開始
令和5年7月1日 夏油高原スキー場施設の使用貸借契約に基づき、株式会社北日本リゾートが運営を開始（継続）
令和5年11月5日 2023 グリーンシーズン営業終了
令和5年11月26日 2023-24 ウィンターシーズン営業開始
令和6年3月15日 令和5年度夏油高原スキー場運営評価委員会
